

【取組内容】個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ～一人一人が自ら学んでいくための支援～

指導案に学び方の見通しをイメージし掲載

6 児童の学び方の見通し（実態・目指す姿・単元における手立てや支援の度合い）

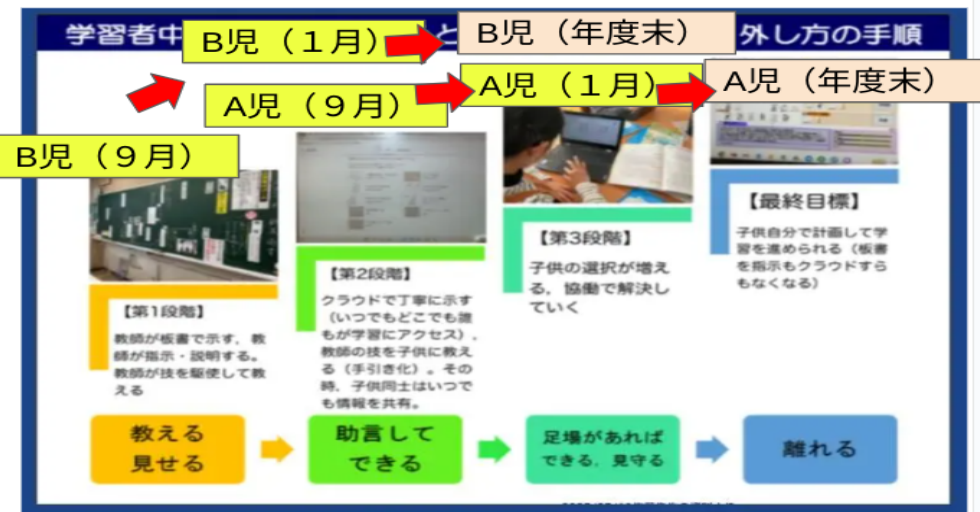
（1）児童の実態と、単元末で目指す姿、単元における手立てや支援の度合い

本学級の児童は、学習に対しての意欲が高く、学び方を自己選択したり、学びの手引きを参考に自分で学びを進めたりすることのできる児童が増えてきた。しかし、その中でも個別の支援が必要な児童も多く在籍しており、1人1人の見取りと声掛け（教師の出番）が必要不可欠だと感じる。そこで、児童の個人内評価を参考にどのようなアプローチができるかを授業者があらかじめ想定するシートを作成した。[アプローチシート（授業者用）](#)（作成中：限定公開）

本単元では、取り組む課題を自己選択し、学びを進める活動を設定する。生活科の「まちたんけん」で発見したことや他教科で学んだ既習事項を基にしながら、単元で身に付けさせたい資質・能力が育成できるようにしていきたい。

（2）単元における目指す児童の主体的・協働的な姿

児童がどのような姿で単元を進めていくのか、授業者が具体的にイメージをした。個によって表れは違いますが、支援の内容を変えながら目指す姿へ近づけたい。



自ら学んでいく児童を目指していく際、一人一人の学びをよく見取り、その児童の段階によって教師の関わりや声掛けも変える必要がある。個別最適な学びを実現し、児童の学び方をより高めるために、信州大学佐藤准教授に提示していただいた「学習者中心の学びへ向かうときの情報の示し方・外し方の手順」を基準に児童の実態と目指す姿を意識することを全校で取り組んだ。